

第2回新処理施設整備検討委員会

日時：平成28年8月10日（金）13時30分～15時40分

場所：新広域ごみ処理施設建設予定地（現地確認）

石岡市役所 本館1F 大会議室（議事）

1. 開 会

2. 現地確認：新広域ごみ処理施設建設予定地

3. 議 事

1) 新処理施設整備地検討委員会での検討事項について

事務局：資料1～4-2の説明。

委 員：処理対象物のうち、粗大ごみは可燃性も不燃性も破砕機に入れるのか。

事務局：可燃性と不燃性を受入段階で分ける。現在構成市町と調整中の内容もあり、今後多少変更する。

委 員：紙類は直接構成市町で資源化するとのことであるが、自己搬入分はコンテナ等を設置するのか。

事務局：集積所のものは市町にて資源化するが、自己搬入はコンテナ等を設置する。この点についても、一部構成市町と協議する。

委 員：ストックヤードは処理前、処理後等で多く必要となるため、搬出等を踏まえ10t、2台分必要だろうと考える。また、コンベヤで移動できるものは極力コンベヤにて移動させたほうが良いと考える。

事務局：貴重なご意見として承る。

委 員：広域処理しないものの取扱いのなかで、プラスチック製容器包装と生ごみであるが、これは焼却に入っているということでしょうか。

委 員：次回内部の市町間協議によって、扱いが決定する予定である。

委 員：プラスチック製容器包装は、かすみがうら市はどのようなリサイクルをされているのか。

委 員：家庭で容器包装プラスチックを分別し、集積所に出したあと、クリーンセンターに持ち込まれる。その後施設にて手選別したうえで、圧縮梱包している。その後、容リ協会の指定法人を通じて、リサイクルしている。毎年業者は変わる。

委 員：価格競争により容リ協会ルートのリサイクルは今後、サーマルリサイクルになっていく可能性がある。容器包装プラスチックが分別収集・選別後にサーマルリサイクルされるのであれば、可燃ごみとして市町村による焼却処理及びサーマルリサイクルであってもほとんど変わりがない。市町村の施策については、総合的な比較検証により決定することが重要だと考える。

事務局：総合的な視点で検討することを構成市に求める。

委員：処理困難物はどうするのか。
事務局：売却できるものは売却等を行う。
委員：全国的な問題である。
委員：消火器、農機具等は現状において断っている。受付けたほうが良いと考える。
事務局：廃掃法6条に基づき、定められた分別区分によって処理を行う。今後の内部協議により詳細を詰めていく。
委員：処理フローについては、処理施設を整備することを前提に、調整をしていくことが望ましい。今後市町で調整・協議を要する事項については、資料に注記を入れたほうが良いと考える。
委員：排水の処理先は、流域下水道であり、その基準を載せている理解でよいか。
事務局：良い。
委員：最大量は。
事務局：最大100m³程度を想定している。
委員：クローズド方式とはなにか。
事務局：処理工程内で蒸発させることにより、排水量をなくす方式である。
委員：準備された資料を確認したところ、処理方式については、焼却灰を資源化する前提と理解したが、焼却灰を埋立処分するという選択肢は考慮しないのか。
事務局：3組合のうち1組合のみが全量しており、2組合は一部処分している。全量資源化するかは、今後の検討課題と考えている。
委員：焼却灰を（一部）埋立処分する選択肢を残しても良いと考える。処理方式の検討の際は、コスト、リサイクル率、エネルギー・CO₂排出量、最終処分量の4つの視点から総合的に評価するべきだと考える。
事務局：ご指摘を踏まえ、検討する。処理方式については、処分した場合を追加する。
委員：最終処分場の問題も確保できるかどうかについて、評価の対象となっていることが多い。
委員：委員からのご指摘を踏まえて、資料を一部修正することになったが、基本的にこの内容に基づいて、委員会の中間報告として良いか。
全委員：異議なし。

2) 生活環境影響調査の報告について

事務局：資料5の説明。
委員：環境省の指針に応じた生活環境影響への調査を実施している。一定の規模以上ではないため、県条例に対応したものは実施しないとのことであった。
委員：大気質の現在のバックグラウンド、気象は予測評価のベースという理解でよいか。また大気質は2季となっているが、指針によるものか。
事務局：ご理解のとおり。
委員：建設地は、霞ヶ浦の影響で特筆すべきものはあるのか。
事務局：現時点で把握していない。

委員：通年気象を調査しているので、分かると思われる。終わった段階で報告があったほうが良い。

事務局：了解。

委員：気象は計画地1地点と周辺地域1地点で把握できるのか。

委員：できる。環境省の指針に従っている。風向、風速等によって、着地濃度の等高線の状態のものを作成し、最大着地濃度地点の影響を予測評価することになる。

3) その他

事務局：次回委員会は、12月1日14時からとする。後ほど通知等で案内する。

全委員：異議なし。

4. 閉 会